

平成30年度病害虫発生予察注意報第1号

平成30年4月3日
愛知県

作物名：ウメ、モモ、ナシ、ブドウ、カキ
病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 やや多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 県下15地点で常緑広葉樹林落葉中におけるチャバネアオカメムシ（図1）の越冬量を調査した結果、1㎡当たりの越冬成虫数は1.6頭（過去10年平均1.1頭、前年0.2頭）と過去10年間で3番目に多かった（表1）。
- (2) 越冬成虫の確認地点割合は86.7%（過去10年平均49.3%、前年40.0%）で、過去10年間で最も高くなった（表1）。
- (3) 越冬量が多いため、越冬成虫が活動する4月～7月の果樹園への飛来量は多くなり、被害が多発すると予想される（図2）。

表1 平成30年のチャバネアオカメムシの越冬成虫密度（頭/㎡）

調査年	調査地点															全地点の平均	越冬確認地点割合
	幸田町		新城市				豊橋市				豊川市						
	須美北山北	須美北山東	大海	市川	中宇利	稲木	嵩山	石巻中山	石巻萩平	石巻平野	小野田	平尾	千両	足山田	金沢		
平成30年	0.7	0.0	9.0	0.7	2.3	1.3	1.0	0.3	1.0	1.0	0.0	0.3	0.7	4.0	2.3	1.6	86.7%
平年	0.6	0.3	3.6	1.3	4.2	0.8	0.5	0.0	0.4	2.0	1.1	0.2	0.5	0.7	1.0	1.1	49.3%

平年：平成20年から平成29年までの過去10年の平均値。



図1 チャバネアオカメムシ成虫

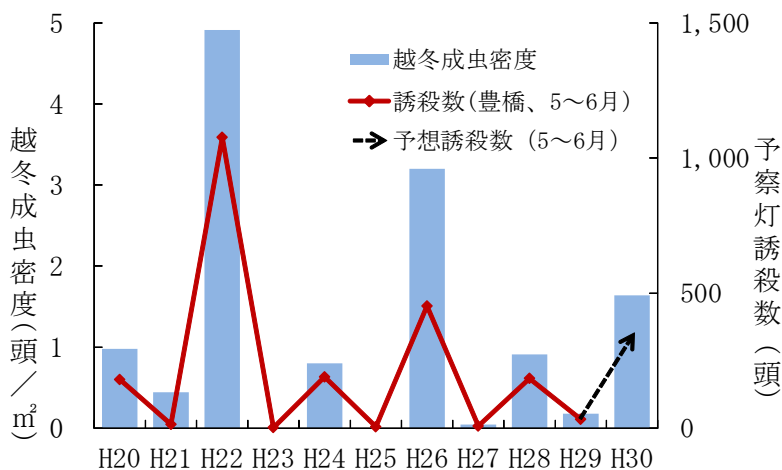


図2 チャバネアオカメムシの平均越冬成虫密度と予察灯における越冬成虫誘殺数（豊橋市）

4 防除対策

- (1) カメムシ類は、20℃以上で風が弱い夜に行動が活発になり、長距離の移動もするようになる。そのため、平坦部の果樹園に突然飛来したり、山沿いの果樹園で飛来が急増したりするので、園内をよく見回り、成虫の飛来状況を確認する。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来して、集中して加害する傾向がある。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (3) 越冬成虫量が多い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、残効の長いネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤を散布する（表2）。

表2 カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	使用時期	希釈倍数	使用回数	IRACコード
うめ	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	2回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫前日まで	2000倍	3回以内	3A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
もも	ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2000～4000倍	3回以内	4A
	アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	10000倍	2回以内	4A
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
	MR. ジョーカー水和剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内	3A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	3000倍	2回以内	3A
なし	MR. ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2000倍	2回以内	3A
	アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで	5000～10000倍	2回以内	4A
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	4A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫前日まで	1500倍	5回以内	3A
ぶどう	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	4A
かき	MR. ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2000倍	2回以内	3A
	キラップフロアブル	収穫7日前まで	2000倍	2回以内	2B
	アドマイヤー顆粒水和剤	収穫7日前まで	5000～10000倍	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2000～4000倍	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫7日前まで	1500倍	5回以内	3A
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫3日前まで	2000倍	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫3日前まで	3000～6000倍	2回以内	3A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

2B：フェニルピラゾール系 3A：ピレスロイド系、ピレトリン系 4A：ネオニコチノイド系

IRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2017/mechanism_irac.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話：0561-62-0085 内線471